

Indonesia Bi-Weekly Vol. 56

(対象期間: 2013年6月10日～2013年6月21日)

英国ブルーデンシャルグループ



米国の金融緩和と縮小観測から世界的な金融市場の動揺が続く中、インドネシアでは株安、債券安、通貨安のトリプル安となり、インドネシアの代表的株価指数であるジャカルタ総合指数*は、およそ4か月ぶりに一時4,500ポイントを割込みました。このような状況の中、インドネシア政府は長年の懸案であった補助金付燃料価格の引上げを実施し、財政規律を保ちつつ経済成長率を高める姿勢を示しました。詳しくは、ニュース欄と2ページ目の基礎講座をご参照ください。*出所: Indonesia Stock Exchange

【株式市場】ジャカルタ総合指数の推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月28日からの推移を示しています。

【株式市場】

セクター別の動きをみると、全セクターが下落する中、鉱業セクターが対象期間中に9.2%下落して最大の値下がり率となりました。個別銘柄についても、代表銘柄の大半が下落し、上昇したのは少数の銘柄に留まりました。

【債券市場】

インドネシア10年国債の利回りは、2011年11月以来の6.9%台にまで急騰(価格は下落)しました。米国の金融緩和が近いうちに縮小に向かうとの見方は、6月19日のバーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の見聞記者会見によって裏付けられ、新興国の債券全般が売られる状況が続きました。詳しくは、2ページ目の基礎講座をご参照ください。

【為替市場】

為替についても、米国の金融緩和と縮小観測から新興国全般に対米ドルで自国通貨安の状況が続いています。詳しくは、2ページ目の基礎講座をご参照ください。但し、対円でのインドネシアルピア安は小幅に留まりました。これは、米国が金融緩和と縮小に向かう一方、日本では異次元の金融緩和が当面継続すると見込まれることから、対米ドルでの円高の流れが円安に変わったことによるものです。

【債券市場】インドネシア自国通貨建て10年国債利回りの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。

【為替市場】インドネシアルピアの対円レートの推移



出所: Bloomberg L.P.のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。
上記のグラフは2006年12月29日からの推移を示しています。(100インドネシアルピア対円レート)

【ニュース】

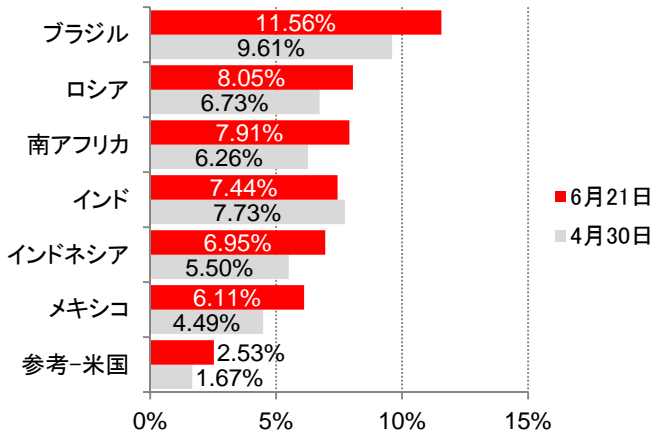
	補助金付燃料価格の引上げ、6月22日から
政治	インドネシア政府は6月21日、補助金付燃料価格を翌22日から引上げると正式に発表しました。レギュラーガソリンの価格は、現在の1リットルあたり4,500ルピア(約44円)から6,500ルピア(約63円)に引上げられます。これに先立ち、国会は17日の本会議で2013年補正予算案を賛成多数で可決し、補助金付燃料価格の引上げを承認しました。補助金付燃料価格の引上げは、国民の間で反対の強い政治的な問題で、一時的にインフレへの影響も懸念されますが、財政規律を保ちつつ政府の歳出をインフラ投資などの成長戦略に向けるためには必要な政策と見られています。また、補助金付燃料価格の引上げは、燃料の輸入減による貿易収支の改善につながると考えられることから、ルピア安に歯止めをかけるものと期待されます。
金融	インドネシア中央銀行、予想外の利上げ インドネシア中央銀行(BI)は6月13日の金融政策決定会合で、大方の予想に反して、政策金利(銀行間取引における目標誘導金利)を5.75%から6.00%に引上げることを選択しました。政策金利の変更は、2012年2月に6.00%から5.75%へ引下げて以来のことです。BIは今回の利上げについて、期待インフレ率の上昇に対する予防的な措置であり、世界の金融市場で不透明感が増す中、マクロ経済と金融システムの安定を維持するための政策と説明しています。

Vol.56(対象期間:2013年6月10日~2013年6月21日)

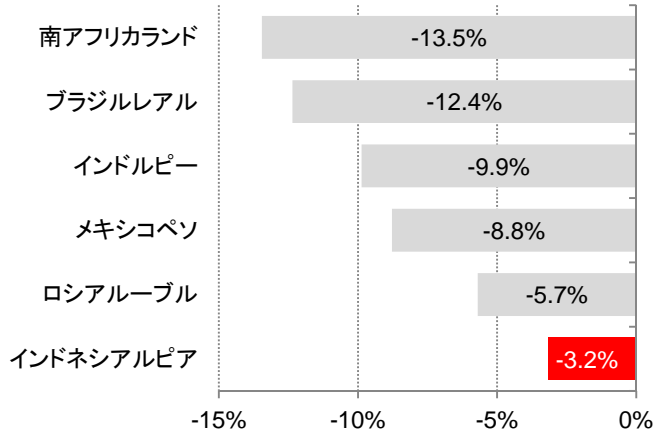
[インドネシア基礎講座] 国債利回り上昇とルピア安:財政・金融両面からの政策で安定を図る

5月半ば以降、インドネシアの国債利回りは上昇(価格は下落)し、インドネシアルピア安が進みました。このような国債利回りの上昇と通貨安は(図表1)と(図表2)に示すように、最近ほとんどの新興国に共通して見られる現象です。米国の金融緩和縮小観測を受けて米国の10年国債利回りが1.67%から2.53%に上昇する中、インドネシアだけでなく新興国の国債利回りは、インフレ低下が好感されたインドを除いて全般に急騰する一方、多くの新興国通貨の対米ドルレートは、インドネシアルピア以上に下落しました。足元では、米国の金融緩和縮小観測が世界の金融市場を動揺させていますが、インドネシアは1ページ目のニュース欄に示すような補助金付燃料価格の引上げやインフレ予防のための利上げなどの政策を着実に実行しています。このような政策により財政規律と物価安定が保たれて、国債価格と通貨の安定につながる事が期待されます。

(図表1) 主要新興国の自国通貨建て10年国債利回りの水準 (2013年4月30日と2013年6月21日の比較)



(図表2) 主要新興国通貨の対米ドルレート下落率 (2013年4月30日~2013年6月21日)



出所:上記の図表はいずれも、Bloomberg L.P.のデータに基づき、イーストスプリング・インベストメンツ作成。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社について
160年以上の歴史を有する英国の金融サービスグループの一員です。

- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社は、1999年の設立以来、日本の投資家のみなさまに資産運用サービスを提供しています。
- イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社は、英国、米国、アジアをはじめとした世界各国で業務を展開しています。
- 最終親会社グループはいち早くアジアの成長性に着目し、アジアでは14の国や地域で生命保険および資産運用を中心に金融サービスを提供しています。最終親会社グループの運用資産総額は、2012年12月末現在、約4,050億ポンド(約57兆円、1ポンド=139.52円)に上ります。



アジア株式・債券の運用拠点であるイーストスプリング・インベストメンツ(シンガポール)リミテッドについて

- アジア地域を幅広くカバーする資産運用会社で、インドネシアを含むアジア株式・債券に関する専門知識と豊富な経験を最大限活用した運用を行います。
- 株式運用においてはボトムアップ・アプローチによる銘柄選択で厳選したポートフォリオの構築とリスク管理を重視、債券運用においては金利、クレジット、為替に対してファンダメンタルズ、バリュエーション、テクニカル等複数の視点で分析、ポートフォリオを構築し、トータル・リターンを最大化を目指した運用を行います。

[当資料に関しご留意いただきたい事項]

当資料は、インドネシアの証券市場と政治、経済、文化等にかかる情報提供のみを目的として、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社(「当社」)が株式会社DZHフィナンシャルリサーチに情報提供を依頼し作成したもので、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。当資料は信頼できると判断された材料を使い、十分な注意を払って作成していますが、当社および株式会社DZHフィナンシャルリサーチは、必ずしもその正確性、完全性をお約束するものではありません。また、掲載された企業につきましては、あくまで直近のトピックとしてご紹介させていただいたものであり、個別銘柄の売買の推奨を意図したのではなく、当社が運用を行う投資信託への組入れを示唆するものでもありません。